

学校教育目標
◎考える子 ○やさしい子 ○たくましい子
知・徳・体の調和のとれた「生きる力」を身に付けた児童の育成を目指す

目指す学校像(ビジョン) 笑顔あふれる学校 ～感動の共有～
①「わかるようになった」「できるようになった」喜びにあふれる学校
②人とかかわりを大切にし、仲良く助けあうやさしさあふれる学校
③体も心も鍛え、活き活きとした元気あふれる学校
④家庭及び地域社会に信頼される、開かれた学校

1 自己評価結果

(評定 上記:10月、下記:1月)

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				
				努力指標	評定	成果指標	評定	
確かな学力の定着・向上	基礎・基本を大切に、児童が主体的に学ぶ授業を行い、思考力・判断力・表現力を身に付けた児童を育成する	個に応じた指導を充実し、基礎・基本を確実に身に付けさせる	4 学習状況の記録、指導に活かすことを8回以上実施(7、2月)	3.4	4 算数の知識、技能の2観点で評定B以上が学級の90%以上	3.5		
			3 学習状況の記録、指導に活かすことを6回以上実施(7、2月)		3 算数の知識、技能の2観点で評定B以上が学級の80%以上			
			2 学習状況の記録、指導に活かすことを4回以上実施(7、2月)		2 算数の知識、技能の2観点で評定B以上が学級の70%以上			
			1 学習状況の記録、指導に活かすことを3回以下(7、2月)		1 算数の知識、技能の2観点で評定B以上が学級の70%未満			
		問題解決的な学習を充実させ、思考力・判断力、表現力を身に付けさせる。	算数科の授業で、課題を明確にし、児童が自分の考えをもち、主体的に伝え合う授業を行う	4 課題を明確にし、児童に道筋を立てて考えさせる授業を実施(90%以上)	3.1	4 算数の思考の観点で評定B以上が90%以上	3.1	
				3 課題を明確にし、児童に道筋を立てて考えさせる授業を実施(80%以上)		3 算数の思考の観点で評定B以上が80%以上		
	読書活動を推進し、読書習慣を確立する	木、金曜日の朝の時間を活用し、読書に慣れ親しませる	4 朝、教室で児童の様子を把握し、必要な指導を実施(100%)	3.4	4 10分間、落ち着いて読書に取り組める児童が100%	3.1		
			3 朝、教室で児童の様子を把握し、必要な指導を実施(90%以上)		3 10分間、落ち着いて読書に取り組める児童が90%以上			
			2 朝、教室で児童の様子を把握し、必要な指導を実施(80%以上)		2 10分間、落ち着いて読書に取り組める児童が80%以上			
			1 朝、教室で児童の様子を把握し、必要な指導を実施(70%以上)		1 10分間、落ち着いて読書に取り組める児童が70%以上			
			4 朝、教室で児童の様子を把握し、必要な指導を実施(100%未満)		4 10分間、落ち着いて読書に取り組める児童が80%未満			
			3 朝、教室で児童の様子を把握し、必要な指導を実施(90%未満)		3 10分間、落ち着いて読書に取り組める児童が70%未満			
豊かな心の育成	自他の生命を尊重し、互いに認め合える豊かな心を育成する	笑顔で明るいあいさつと返事ができ、温かい言葉遣いのできる態度を育成する	4 教員自ら明るいあいさつ、言葉遣いの指導を実施(90%以上)	3.8	4 自分から明るいあいさつのできる児童が90%以上	3.0		
			3 教員自ら明るいあいさつ、言葉遣いの指導を実施(80%以上)		3 自分から明るいあいさつのできる児童が80%以上			
			2 教員自ら明るいあいさつ、言葉遣いの指導を実施(70%以上)		2 自分から明るいあいさつのできる児童が70%以上			
	いじめを撲滅するために、アンテナを高くし、いじめを早期発見し、早期解決する	ふれあい月間における調査や普段の生活を通して実態把握するとともにSCおよび心のふれあい相談員と連携を図り対処する	教職員の明るいあいさつ、言葉遣いの指導を全校で重点的に行う	4 教員自ら児童に声をかけ、様子を把握し必要な指導を実施(90%以上)	3.8	4 毎日登校し、明るい学校生活を送っている児童が90%以上	3.7	
				3 教員自ら児童に声をかけ、様子を把握し必要な指導を実施(80%以上)		3 毎日登校し、明るい学校生活を送っている児童が80%以上		
				2 教員自ら児童に声をかけ、様子を把握し必要な指導を実施(70%以上)		2 毎日登校し、明るい学校生活を送っている児童が70%以上		
健康な生活	安全な環境を整え、体力の向上、健康の維持増進を図るとともに、オリンピック、パラリンピック教育を推進する	体育の時間、体育的行事、体育朝会、休み時間等を活用し、児童の運動能力、体力向上を図る	4 新体力テストの結果を分析し体育の授業を改善するとともに、トップアスリートを招聘し、目標に向かって努力する児童を育てる	3.1	4 体育の関心、思考、技能の3観点で評定B以上が90%以上	3.3		
			3 体育の授業改善を3点実施		3 体育の関心、思考、技能の3観点で評定B以上が80%以上			
			2 体育の授業改善を2点実施		2 体育の関心、思考、技能の3観点で評定B以上が70%以上			
			1 体育の授業改善を1点以下実施		1 体育の関心、思考、技能の3観点で評定B以上が70%未満			
			4 食に関する指導の年間計画に基づいた指導の実施(90%以上)		2.6		4 残滓無しの日が80%以上	2.4
			3 食に関する指導の年間計画に基づいた指導の実施(80%以上)				3 残滓無しの日が50%以上	
	2 食に関する指導の年間計画に基づいた指導の実施(70%以上)	2 残滓無しの日が20%以上						
	1 食に関する指導の年間計画に基づいた指導の実施(70%未満)	1 残滓無しの日が20%未満						
	開かれた学校	家庭、地域に信頼される、開かれた学校づくりを推進する	HPやたより、年3回の学校公開などで教育活動の様子などを伝える	4 学期4回以上発行する	2.4	4 保護者アンケートで良好が90%以上	3.1	
				3 学期3回以上発行する		3 保護者アンケートで良好が80%以上		
				2 学期2回以上発行する		2 保護者アンケートで良好が70%以上		
				1 学期1回以上発行する		1 保護者アンケートで良好が70%未満		

2 学校関係者評価

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	○成果と△課題	改善策	評議員からのコメント
<p>確かな学力の向上</p>	<p>基礎・基本を大切に、児童が主体的に学ぶ授業を行い、思考力・判断力・表現力を身に付けた児童を育成する</p>	<p>個に応じた指導を充実し、基礎・基本を確実に身に付けさせる</p>	<p>算数科で名簿、座席表に児童の単元の過程における学習状況を記録し、次時の指導に活かす</p>	<p>○座席表に評価や児童の考えを記号化し記入することで、児童の課題が明らかになり、継続的な指導や特定の児童の指導をすることができた。 ○朝学習で毎週計算テスト(算数チャンピオン)を行い、計算が苦手な児童が減った。(まとめテストの満点が全児童の8割) ○少人数指導教員及び学力向上支援講師との連携により習熟度に応じた授業が行えるようになった。 ○宿題や家庭学習を定着させ次時の授業に活かすことができた。 △指導で手一杯になり、全員の児童の学習状況を把握し、記録することが時間的に厳しい。(若手教員) △能力差が大きく、個に対応することが難しい。 △基礎学力の定着が図られない。</p>	<p>・授業中で、こちらが把握すべき観点を明確にし、的を絞って記録する。また、学習状況を記録する児童を数名に絞り、記録するようにする。 ・単元毎に一度はノートを集めて記録する。 ・休み時間や給食の準備中などの時間を活用して、個別指導で対応する。 ・小テストを繰り返し実施し、間違った問題については再テストをするなど定着を図る。 ・家庭と連携して、低学年から家庭学習の習慣を身に付けさせる。</p>	<p>・数年前と比べて授業の様子が変わってきたと思う。 ・学習態度がよくなっている。 ・学力向上につながっているのではないかと聞いている。 ・聞くことができている。 ・児童の個性を見極めた指導をお願いします。</p>
		<p>問題解決的な学習を充実させ、思考力・判断力・表現力を身に付けさせる。</p>	<p>算数科の授業で、課題を明確にし、児童が自分の考えをもち、主体的に伝へ合う授業を行う</p>	<p>○今年度の校内研究のテーマ「自分の考えをもち、主体的に伝へ合う児童の育成」を意識した授業が展開され自分の考えを理由を付けて発言できる児童が増えた。 ○事前にノートに自分の考えをまとめておくことで、発表の際、詰まることなく意見を言うことができる児童が増えた。 ○少人数グループで発表することで自信をつけた児童が増えた。 ○毎時間、「めあて」を提示し、自力解決→伝へ合い(ペアークラス)、まとめ、適応問題という流れが定着してきた。 △児童の語彙だけでは、課題を分かりやすくまとめるには不十分があり、自分の考えを相手に分かるように伝える練習が必要である。 △発表内容をノートにまとめるのに時間がかかるので、教員が児童の考えをまとめている。 △課題は把握できても、解決への見通しが全く見つからない児童も少なくない。 △個別指導に時間を割き基礎・基本の習熟にとどまった。 △自分の考えを、ペアやグループなどの少人数の場では発表できるが、クラス全体までは発表できない児童がおり、発表する児童に偏りがみられる。</p>	<p>・児童が主体となって意見をまとめる経験をさせ、徐々に分かりやすくまとめる力を身に付けさせていく。 ・低学年からペアやグループで発表する場を増やし、自分の考えを発表しやすい機会を多く設ける。 ・まずは自分の考えをノートに書かせる習慣を身に付けさせ、担任が確認する。 ・どの児童も、自分の考えをもち発表できるように、ねらいを明確にしたり内容を精選したりして、授業改善に努める。 ・児童の「自分の考え」は、言葉や図、絵や表であっても認め、教師が言葉で課題と結びつように紹介するなどの手立てをとる。 ・国語科の学習の中でも、話す聞くの学習を充実させ、指導していく。 ・話形を確認するなど、発表の仕方を事前に伝えることで自信をもって発表できるようにする。</p>	<p>・教えたことはすぐ把握する子が多い。 ・応用・活用ができなくなっている。 ・「一つ知ったら十を知る」ことができなと感じる。 ・相手の考えを聴き取る力を付けてもらいたい。そして、相手の意見に共感したり、反論したりする相互コミュニケーションを大切にしたい。</p>
		<p>読書活動を推進し、読書習慣を確立する</p>	<p>木、金曜日の朝の時間を活用し、読書に慣れ親しませる</p>	<p>○朝読書を毎週行ったことで、読書に親しむ児童が増えた。また、進んで読書をする児童の姿が見られた。 ○読書旬間を工夫し、読書の習慣が身に付いてきた。また、図書室の活用も増えた。 ○金曜日の読み聞かせが定着し、読書をする児童が増えた。 ○木曜日は、担任もついて読書できるようになったため、15分間、落ち着いて読書に取り組むことができるようになった。 ○テーマをもってブックトークをしたり、関連図書を紹介した。 △ジャンルが偏っている児童がいる。 △読書については、個人差が大きい。取りかかるまでに時間がかかったり、読書の時間以外に本を読まない児童もいる。</p>	<p>・図書や国語の時間を活用して、様々な本にふれる機会を設定する。 ・学級文庫を整備したり団体貸し出しを利用し、読書に適した本がいつもそばにあるよう、定期的に確認をしていく。 ・今後も、木曜日の読書タイムは担任と一緒に読書をして、習慣づける。 ・個に応じた読書ができるよう、学年にとらわれない図書の紹介ができるようにしていく。 ・読書ノートは、内容を簡単にし、書きやすくする。 ・図書支援員と相談しながら、積極的に読書をするための工夫を行う。</p>	<p>・読書、音読の時間は、今以上にとってほしい。 ・読み聞かせは長く続いており、システムができている。 ・本が新しく入れ替わっていてよい。新しい本があると利用者も増えているようだ。 ・ひろばを利用している子が多い。 ・短い時間でも良いので、毎日日本に向き合う習慣をつけてほしい。</p>

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	○成果と△課題	改善策	評議員からのコメント
豊かな心の育成	自他の生命を尊重し、互いに認め合える豊かな心を育成する	笑顔で明るいあいさつと返事ができ、温かい言葉遣いができる態度を育成する	教職員が明るいあいさつを励行するとともに、あいさつ、言葉遣いの指導を全校で重点的に行う	<p>○こちらから挨拶すると、元気よく挨拶を返し、登校時も挨拶をする児童が増えた。</p> <p>○あたたかい言葉かけを指導することで、児童の間に認め合える心が芽生えてきた。</p> <p>○担任だけでなく、他の学校関係者にも挨拶できるようになった。</p> <p>△挨拶が当たり前のできる児童と、全く意識がない児童に分かれている。(自分から進んで挨拶できる児童が少ない)</p> <p>△挨拶の声が小さい児童がいる。</p> <p>△まだ友だちに対して乱暴な言葉が飛びかう場面がある。</p> <p>△目上の人に対する言葉使いや、担任以外の教員にも明るく挨拶することが目標である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・代表委員会のあいさつ運動を、朝だけでなく休み時間にも拡げる。 ・道徳の時間や毎日の朝の会や帰りの会を通して挨拶の大切さや言葉使いの指導を行う。 ・担任以外の教員や主事さんなど、校内で見かけた人にも、自分から挨拶ができるよう指導する。 ・生活改善習慣や週目標などの機会に重点を指導し習慣化を図る。 ・挨拶も言葉遣いも、教員が気を付けることが重要だが、保護者への呼び掛けをもっと多くする。 ・人権教育プログラムの『あなたの人権感覚』を活用し常に意識して児童と接する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大人の方から声をかけるようにしている。「おはようございます。」と子どもから返事が返ってくる。 ・目を見て、挨拶してくれる。 ・言葉遣いは、親がポイントだと思う。 ・小中連携の挨拶運動はよい取組である。 ・保護者・地域の方も校門前で挨拶するとよい。(顔がわかると挨拶しやすい)
		いじめを撲滅するために、アンテナを高くし、いじめを早期発見し、早期解決する	ふれあい月間における調査や普段の生活を通して実態把握するとともにSCおよび心のふれあい相談員と連携を図り対処する	<p>○毎週行っている生活指導朝会で、気になることを報告し合い共有することで、おおきなトラブルは起こっていない。</p> <p>○ふれあい月間に行う調査で、気になる児童に対して個別に対応することができた。</p> <p>○SCや心のふれあい相談員、学校生活支援員との連携により、いじめを未然に防ぐことができたケースがある。</p> <p>○いじめアンケートや生活アンケートを活用し、未然防止、早期発見することができた。</p> <p>△自己中心的で友達への思いやりに欠ける言動や態度をとる児童がいる。</p> <p>△友達とうまく関われない児童がいる。</p> <p>△さらに道徳の授業を充実させる。</p> <p>△SCは週1回の出勤なので、連携が取りづらいときがあった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・もし、いじめに気づいたときはすぐに指導するとともに自らの行動を振り返らせる。 ・友達の良いところや褒めたいところを発表する場面を設定する。 ・心配な児童に関しては積極的にSCや心のふれあい相談員に相談し連携を図る。 ・友達とうまくかわらせるためにアサーショントレーニングや(構造的グループ)エンカウンターを取り入れる。 ・実態に合わせた道徳の授業を計画し実践する。 ・問題発言は見逃さずその場で適切な指導をする。 ・特別支援コーディネーターを中心に外部との連携を図る。 ・代表委員会以外でも挨拶啓発活動を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最近の傾向は言葉によるいじめだと聞いている。 ・子どものけんかに関係が親が出過ぎることがあるように思う。 ・担任が一人で抱え込まないような組織的な対応をしていることに対して、先生方の表情が明るい。 ・それは大事なことだと思う。 ・生活アンケートの記載内容が、子供たちの小さな変化に気づくような設問にするなど工夫してほしい。
健康な生活	安全な環境を整え、体力の向上、健康の維持増進を図るとともに、オリンピック、パラリンピック教育を推進する	体育の時間、体育的行事、体育朝会、休み時間等を活用し、児童の運動能力、体力向上を図る	新体力テストの結果を分析し体育の授業を改善するとともに、トップアスリートを招聘し、目標に向かって努力する児童を育てる	<p>○準備運動に新体力テストでの課題となった運動を取り入れ克服できる児童が増えた。</p> <p>○休み時間は、教員も一緒に外遊びをすることで、校庭で元気に遊ぶ児童が増えた。</p> <p>○マラソン月間を通して運動する習慣が身に付いた。</p> <p>○ダブルダッチや縄跳び朝会の活動をきっかけとし、体育の学習だけでなく、休み時間にも、縄跳びに意欲的に取り組む児童が増えた。</p> <p>○夢先生や野球教室や講演会などに児童は進んで参加することができ、関心が高まった。</p> <p>△全ての単元で、細かい指導計画を立てるのが力量的にも時間的にも難しい。</p> <p>△運動能力の個人差が大きい</p> <p>△寒い時期に外遊びをしない児童がいる。</p> <p>△担当5カ国の現地校との交流の手立てがなかなか見つからない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導書、丸わかりハンドブックを参考にして指導計画を立てて、それを実践していく。 ・個に応じた場の設定や声かけをしていく。 ・体育の授業では説明を端的にし、一単位時間内の運動量を確保し、楽しく活動できるよう授業改善を行う。 ・今後もトップアスリートを招聘し一緒に活動することで、運動の楽しさを味わわせる。(全学年) ・オリンピック・パラリンピック教育を今後も計画的に進め興味関心をもたせていく。 ・寒い時期でも教員が声かけをして、率先して20分休みに外遊びを行う。 ・得意な児童をミニ先生として教え合える場を設け、苦手な運動にも取り組んで行かれるようにする。 ・体力が低い児童でも意欲的に取り組めるよう、ルールを簡素化したり、グループで教え合う機会を取り入れたりなど、体育の授業を工夫する。 ・準備運動や新体力テストの課題と精通する運動を部分的に取り入れて継続的にやっていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・トップアスリートを招聘しての授業は体育・スポーツへの関心が高まる。今後も継続してほしい。 ・トップアスリートへのあこがれは、意欲につながってよい。 ・母校の卒業生でアスリートがいたら招聘してみるのもよい。(身近に感じられる)

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	○成果と△課題	改善策	評議員からのコメント
健康な生活	安全な環境を整え、体力の向上、健康の維持増進を図るとともに、オリンピック、パラリンピック教育を推進する	食育指導を充実させ、食や自らの健康に対する意識を高め、健康の維持増進のための実践力を身に付ける	食に関する指導計画に基づき、給食指導を充実させる	<p>○全体的によく食べ、完食することがほとんどである。また、完食しようと努力している児童が増えた。</p> <p>○最初の10分は黙って食べる約束を徹底してきた。</p> <p>○好き嫌いは多少あるが、係を中心としてクラス全体で完食しようという意識は高まっている。</p> <p>○生活科や道徳などの授業とも関連づけて、食育を実施し、給食指導を行うことができた。</p> <p>○毎日の栄養士からの食育メモを活用して、食に興味をもたせることができた。</p> <p>△苦手な物を食べることや自分の食べられる量に合わせて、食事の量を調整していくことが課題である。</p> <p>△食べるのが遅くて時間内に終わらない児童がいる。</p> <p>△給食のマナーが悪い児童が多少いる。</p> <p>△好き嫌いの激しい児童がいる。食に対する意識についても個人差が大きい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・好き嫌いが多い児童には、引き続き少しでも食べるという指導を根気強く続ける。 ・時間内に食べられる量を盛りつける。 ・給食の時間を意識して食べるように指導する。 ・好き嫌い、偏食については、保護者への協力を求め改善を図る。 ・家庭科の授業を中心に食の大切さをよりよく伝え、さらに食についての意識を高めていく。 ・食育指導を計画的に進め、栄養士と連携し給食の充実を図る。 ・保護者への食育指導を行ったり、子供向けの出前授業を行ったりして、食の重要性を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食べられない子に対して時間で区切って指導しているのはよい。 ・無理に食べさせる必要はない。 ・食べ物元の形を見せるのはよい。(練馬大根、うど等の野菜) ・アレルギー対応が大変だと思う。しっかりした対応をお願いしたい。 ・食習慣を改善する指導をお願いします。

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	○成果と△課題	改善策	評議員からのコメント
開かれた学校	家庭、地域に信頼される、開かれた学校づくりを推進する	HPやたより、年8回の学校公開などで教育活動の様子などを伝える	A4版程度の学級、専科だよりで学級や授業の様子を知らせる	<p>○HPを週2、3回アップし、学校の様子、児童の様子を伝えることができた。特に移動教室はリアルタイムに学校日記に写真を載せ保護者から好評をいただいた。</p> <p>○毎週定期的に学級便りを発行することで、保護者のクラスに対する理解が深まってきた。</p> <p>○時には学級通信を保護者だけでなく、児童に向けての内容にしたこともあった。</p> <p>○学校公開で掲示物を工夫し、学校の様子がわかるようにした。</p> <p>○学校公開では教科が偏らないように計画を立て、いろいろな場面での児童の様子を見ていただくことができた。</p> <p>△計画的に発行することができないときがあった。</p> <p>△お便りをあまり読んでいない家庭がある。</p> <p>△学級通信が連絡部分が多くなり、具体的な児童の様子を盛り込むことができなかった。</p> <p>△学年通信は月に1回出したが学級通信が出せなかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に子供たちの様子が伝わるように積極的かつ継続的に発行していく。 ・月1回のペースで、無理なく続けて行く。 ・連絡だけににならないよう、内容を工夫していきたい。 ・保護者会等でお便りについて現状を報告し、親の意識を高めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・移動教室の写真リアルタイムでHPにアップしているが、移動教室から戻って写真を見ながらの子どもとコミュニケーションをとる方法もよいのではないか。 ・学年・学級便りは楽しみにしている。学級の様子がよくわかる。 ・SNSトラブルは年齢が下がりがつつあり心配である。 ・安全のためケータイをもっている子が増えた。 ・遊びの限度を知らない。切り替えのできない子がいる。 ・他校のHPや学校だよりも参考にしてください。

3 評価結果の公表

自己評価、学校関係者評価については、ホームページで公表する。教育活動アンケート(児童、保護者、教員)については、すでに印刷物で公表している。

4 次年度の学校改善へ向けた校長の見解

・確かな学力の向上、豊かな心の育成、健康な生活、開かれた学校など家庭・地域との連携が重要である。家庭や地域への啓発を工夫、強化することが改善のための一つの鍵になる。具体的な方策を発信し改善を図っていく。

・伝統ある本校は地域の期待も大きい。期待に応えるためにも今年度の反省をもとに考えた改善策を、まずは確実に実行していく。PDCAサイクルを活かして、年度途中でも改善策の妥当性を吟味し、必要に応じて見直しをしていく。学校経営計画等の視覚化、自己申告や授業観察の活用等を行い、教員の改善に対する意識を高めるとともに、よい実践の共有を進める。